

Preservation Methods for Papers attached on the Surface of a Certain Mingu

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日高, 真吾 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008372

民具に貼られた紙の保存処理

日 高 真 吾*

はじめに

民具に用いられている紙の役割はいろいろある。例えば、タンスなどに防虫のために貼られている新聞紙（写真1）や、傘や駕籠の屋根のように撥水剤を施し、防水のために用いられているもの（写真2）、また行灯のように光を広範囲に及ぼすために用いられているもの（写真3）などがある。その他、商標を示すためや装飾のために用いられているもの（写真4）なども挙げられよう。以上に示しただけでもその用途は様々であり、貼られている紙の種類も、和紙であったり、洋紙であったり、再生紙であったりするなど多種多様である。

上記に列挙したような民具に貼られた紙は、本来使い捨てにされていくものであり、長期にわたる使用を考慮せずに用いられていることがほとんどである。従って、紙自身の経時変化による脆弱化や汚れなどによる劣化が進むことによって破損や欠損を生じ、緊急に保存処理を行うことが必要となっている場合が多い。そこで、筆者が行っているこれら民具に貼られた紙の保存処理について以下に報告する。

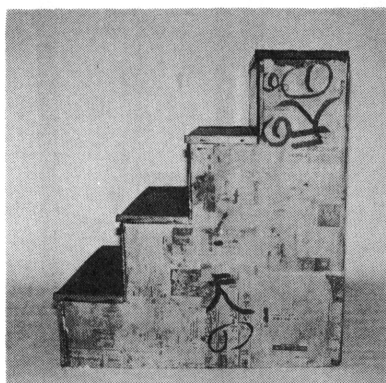


写真1

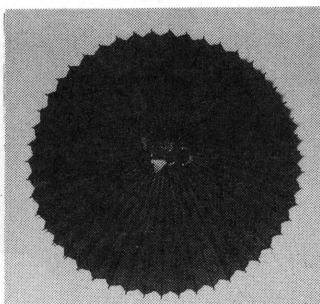


写真2

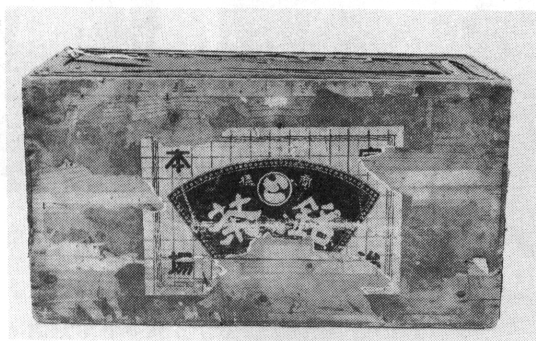


写真4

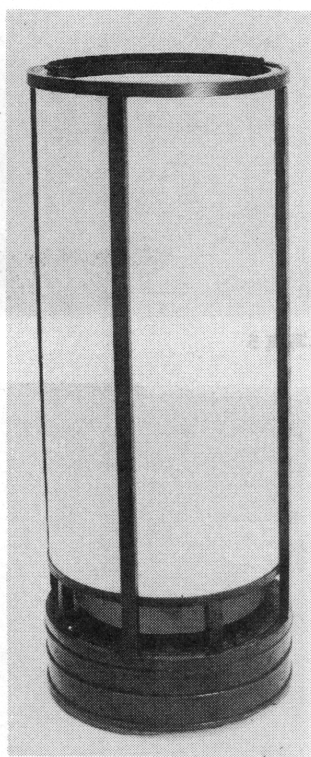


写真3

* ひだかしんご キーワード：紙、保存処理

1 民具に貼られている紙の劣化状態

民具に貼られている紙の劣化の特徴と原因は次の5点があげられる。

①埃などによる紙全体の汚れ（写真5）

埃は紙に限らず、民具に用いられている構成素材すべての劣化原因となるものであるが、紙の場合では埃が湿気を吸収することでシミの原因となったり、黴の要因となる。

②紙の破損（写真6）

③破損が進行して生じてくる欠損（写真7）

この2つは、民具に貼られた紙でもっとも観察される劣化形態である。劣化の原因は、使用時にすでに起きている場合や収集前後の移動、道具としての役目を終えて、保存処理が行われるまでの経時変化による風化などが考えられる。

④紙の剥離、剥落（写真8）

民具に貼られた紙の多くは接着に糊を利用しているが、糊の劣化によって紙が剥離したり、剥離箇所からさらに劣化が進んで剥落を起こすことがある。また、基底材の木部が乾湿によって収縮するなど基底材の動きを原因として剥離を起こす場合もある。

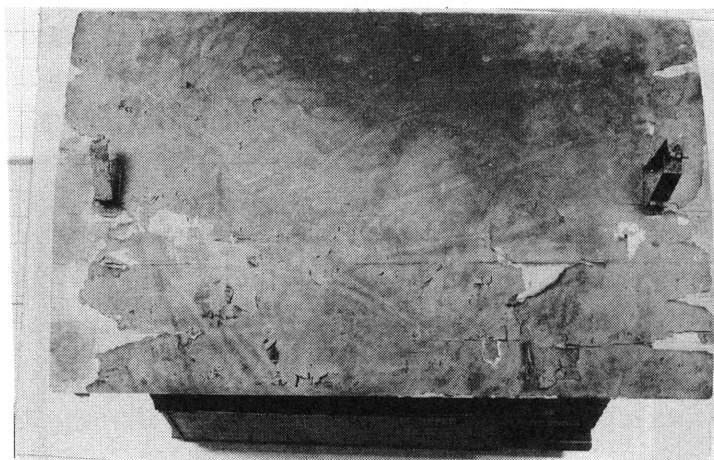


写真5

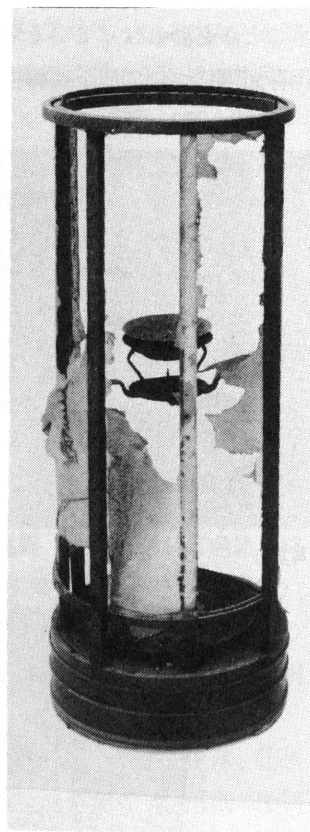
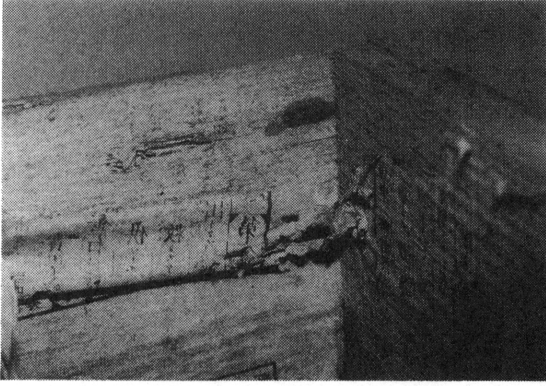


写真7



写真6



⑤酸性化による紙の脆弱化（写真9）

民具に貼られている紙は純粋な和紙だけとは限らず洋紙や再生紙であることが多い。この場合、パルプに含まれているリグニンなどの酸性物質が原因となって酸性化を起こす。特に酸性化した紙は脆弱化の程度が著しい。

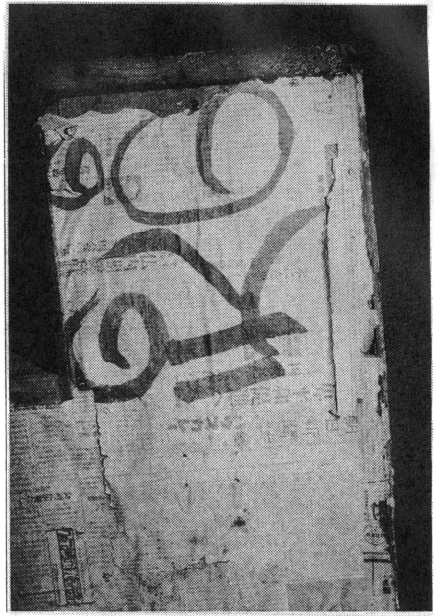


写真9

⑥風化による彩色部分の粉状劣化（写真10）

民具に貼られた紙のなかには、防水や商標、装飾とその目的は様々であるが彩色のあるものが観察される。これら彩色部分は顔料であったり印刷物であったりするが、樹脂成分や基底材の風化によって粉状に劣化を起こしていることがある。

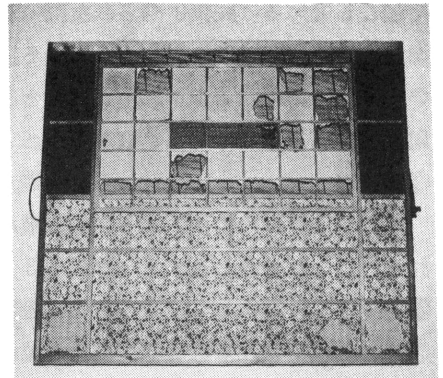


写真10

2 民具に貼られた紙の保存処理方法

民具に貼られた紙に行っている保存処理の方法について紹介する。

① 紙のクリーニング

紙のクリーニングの方法は、乾式法と湿式法の2種類がある。乾式法のクリーニングは、筆や刷毛で、紙の表面や裏面の埃を除去する方法とクリーニングバット（写真11）（粒状にした消しゴム）を用いて紙の表面の埃を除去する方法がある。このクリーニング方法は民具に貼られた紙全体に対して有効である。湿式法のクリーニングは、本体に和紙を水張りしてタンポでたたき、汚れを浮かして和紙に吸い取らせていく方法である。（写真12）この方法は、紙全体に染み込んだ汚れを除去していくのに有効な方法である。しかし、水を用いることから文字や彩色部分が粉状劣化を起こしている資料は、それらの文字や彩色部分を剥落させる恐れがあるため、紙の劣化状態を正確に把握して選択する必要がある。また、こびりついている埃などは除去するどころか、逆にシミとして周辺部分に広げてしまう危険性もあるため、選択の際の慎重さが求められる方法である。

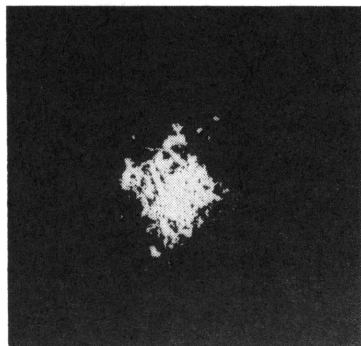


写真11



写真12

以上が、紙のクリーニング方法だが、この処理を最初にしっかりと行わないと次からの処理でシミ等の原因となってしまうことから、民具に貼られた紙の保存処理を行う上で一番重要な処理といえよう。

② 剥落止め

彩色や文字のある紙について、剥落止め処置を行う。特に彩色のある紙の多くは、粉状劣化を起こしている。民具に貼られた紙の彩色はインクによる印刷物の彩色が多く、非常に溶剤に滲みやすく保存処理を難しくしている。従って、民具に貼られた紙における剥落止め処置に用いる処置材料は、インク彩色の滲みと、劣化部分への接着剤の歩留まりを考慮して、主に膠を用いて塗布、または全体へ噴霧する。

③ 接着

風化や接着剤の劣化による剥離、破れなどを起こしている箇所について、元の位置の接着検討を行い、貼り直しをする（写真13）。

④ 復元

紙の剥離や破れなど劣化が進むことによって生じた欠損箇所に、資料の強度と質感を出すために新しい紙の貼り替えを行う（写真14）。貼り替える紙は、資料の使用方法や貼り替えた後の強度、質感などを十分考慮して選択する。



写真13

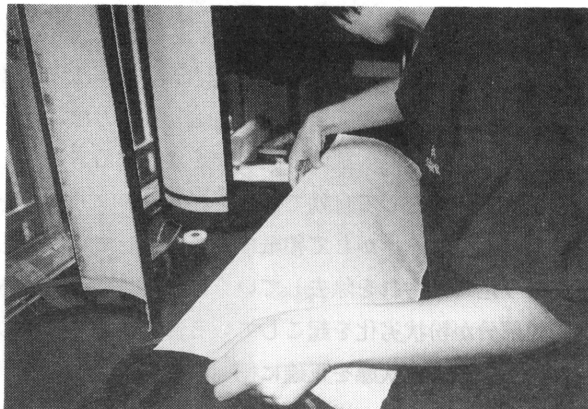


写真14

⑤ 強化

紙が貼られている基底材の動きなどによって、木部の継ぎ目から紙に亀裂が生じた箇所を和紙で繕い、紙に強度を持たせる。また酸性化が進み、紙全体の強度が脆弱な場合は、劣化の状況に応じて和紙を選択して裏打ちを行う（写真15）。以上、③④⑤の処理で用いる接着剤は、市販の糊には樹脂分が入っており可逆性がないことから、可逆性がある表具などで古くから用いられている小麦澱粉糊を作り（写真16）、紙の劣化状態に応じて粘度を変え使用する。

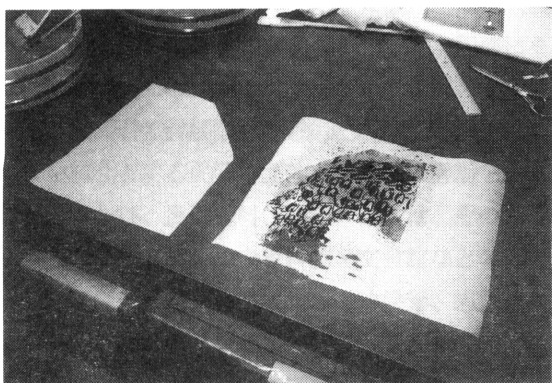


写真15

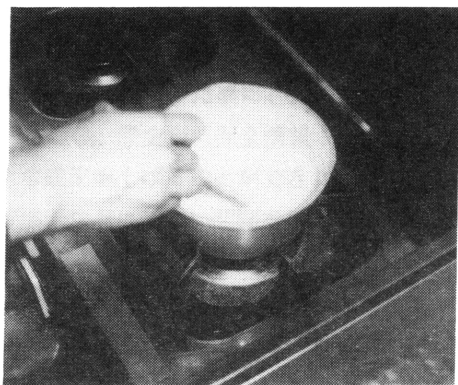


写真16

⑥ 防カビ処理

紙は性質上、吸湿しやすいことからカビが発生しやすい。また、保存処理を進めていく中で、膠や防腐剤の混入されていない糊など、水分を用いることから、非常にカビの発生しやすい状態になる。そこで、防カビ剤を全体に噴霧し、完全に乾燥させる。

3 まとめ

民具に貼られた紙の保存処理を行うときに、よく観察されるものとして、所蔵者や所蔵機関によって、可逆性のない接着剤を使用して紙の貼り直しが行われたり、違う位置に貼り戻されていることがある。また、十分なクリーニングを行わずに接着することによって、紙にシミを生じさせている場合もある。これらの状態のものを修復することは困難であり、さらに破損箇所を増やしてしまうなど大きな危険性も生じてくる。和紙は、柔軟性や強度もあり、考えている以上に丈夫なものであるが、民具に貼られている紙で保存処理が緊急に必要な紙はすべてが純粋な和紙ではなく、またその多くは他からの転用である。さらにその役目を終え放置され、時の経つままに紙が風化して考えている以上に脆弱なものとなっていることがほとんどであろう。従って、可逆性のある処置材料の選択と同時に保存処理方法も資料の状態に応じて選択することが必要なのである。

また、民具に貼られた紙の保存処理において現状維持を柱とする通常の民具の保存処理と大きく異なってくる点は、資料の質感や強度を重要視する観点から復元作業も保存処理の大きな柱のひとつとなってくることである。この復元作業を行う場合、使用歴や使用時の形状、使用素材、制作方法そして収集時の状態など正しく認識していなければならない。以上のことを行うには、筆者ら保存処理技術者だけでは網羅しきれないのが現状である。従って、所蔵機関や所蔵者、そして筆者らの様な保存処理技術者が一体となって積極的に処置方針を検討していく

ことが必要である。このことは、民具に貼られた紙の保存処理だけに限らず、民具の保存全体を考えたときでも大きな課題でもあろう。今回の発表が各民具研究者、所蔵機関、そして保存処理技術者のつながりがさらにできるひとつの契機になればと期待しています。

最後に資料の写真の掲載許可をいただきました、滋賀県立琵琶湖博物館、草津宿本陣、豊中市教育委員会、大田区立郷土博物館の皆様に御礼申し上げます。